

人文学部卒業研究

題 目 ミザンセヌ

指導教授 三摩真己 印

提出年月日 2018年 12月 14日

学籍番号 HI15029

氏 名 島崎 葵

『ミザンセヌ』

HI15017 加藤 夕陽

HI15029 島崎 葵

要旨

3日前の朝食のメニューは何だったか、1週間前はどこへ誰と行ったのか、記憶は頭の中の思い出をメモリーとして残している。しかし3日前の朝食時につけていたテレビ番組や1週間前のフライトは何時発であったかなど細かな情報は中々思い出すことは難しいことである。もし1週間前から自分の生活を丸々と映像で撮影していたのなら、きっと記憶には落とし込まれていない情報まで見返すことができるであろう。私たちは生活しながら多くの経験や思い出の記憶を日々積み重ねている。だがその記憶というものは曖昧で自分を良く魅せようとオーバーな表現をしてみたり、他人のエピソードをまるで自分が体験したかのように思うことができるのだ。これは当たり前のもので、私は人には頭の中で記憶を加工、言わば編集する特性があると思ったのである。

私は映像には広大な可能性があると考え。上記で述べたように映像は丸々真実を撮影することや、はたまた編集してまったく別のものに見せたりする面白さがあり、カメラのレンズと人間の目のレンズ、編集機と人の頭の中に近いものを感じた。

このドラマは、まず冒頭でトラウマの定義を提示する。そして主人公のミアの日常生活を送る様子から始まる。バイト先で先輩とぶつかってしまいグラスを落とし、割れる音と共にミアは過去の体験を思い起こす。7年前、中学3年生だったミアは学校から自宅へ帰る途中「パリーン」といったガラスの割れる音を耳にし、そちらへ目を向けると、1人の少年がしゃがみ込んでいる姿が目に入ったのだ。その少年は前日クラス全員で埋めたタイムカプセルを掘り起こしていたのである。ミアはその光景に衝撃を受け、フラッシュバックしたのである。翌日ミアは自宅のポストに中学校の同窓会の知らせのハガキを受け取り、親友であるスズと同窓会へ行くといった約束をする。同窓会では、ミアとスズのほかに何人かの同級生が集まりたわいもない話をする。しかし途中でやはり7年前のタイムカプセル事件の犯人についての話が話題となり、ミアは真実を知っている故、なかなか本音を言えずにいたのである。すると突然、親友のスズが緊迫した様子でクメの名前を口にする。ミアは、とっさに自分もクメが犯人であるという真実をスズに代わって告白する。時は過ぎ、あるニュース番組で映画の授賞式が報道されていた。そこには新人監督本田スズという肩書でスズがテレビに出演していたのである。映画のタイトルはトラウマで、7年前の中学校で起きたタイムカプセル事件を扱ったノンフィクションであると話題となっていた。スズはトラウマを克服するため真実を映像化したのだと話しながら、7年前の本当の記憶を蘇らせていく。

キーワード

トラウマ 記憶 映像 フラッシュバック 克服

目次

1. テーマを選んだ理由	1
2. ねらい	2
3. 構成	2
3-1 : アバン	2
3-2 : タイトル	3
3-3 : メインクレジットタイトル	3
3-4 : フラッシュバック	3
3-5 : 同窓会のお知らせ	3
3-6 : 同窓会	3
3-7 : 帰り道	4
3-8 : ミアとボッタ	4
3-9 : クメの部屋とニュース	4
3-10 : 真実	5
3-11 : ミザンセヌ	5
4. 作品を制作する時に気を付けたこと	5
5. 作品を通して伝えたかったこと	6
6. 実際の制作で学んだこと	7
7. 参考文献	9
付録1 構成	i
付録2 台本	xii